



東洋医学公益講座

第29回

- ✓ 講師：羅 予澤
- ✓ 提供：未病予防協会
- ✓ 協賛：(株)ベンチャーバンク

先人の智慧、後世の階段

東洋医学生理学基礎

東西医学の生理学の差異



東洋医学



西洋医学

- ✓ 西洋医学の生理学は解剖学から目に見える肉体や物に着目
- ✓ 東洋医学の生理学は自然哲学から目に見えない気を重視

いろいろの「気」

✓ 肉眼では見えないもの

電気、熱、水蒸気、電磁波、酸素、
ガス、ウイルス、細菌、神経物質 etc.

✓ 測定不可能なもの

オーラ、霊、神、鬼、ダークマター、
ダークエネルギー etc.

東洋医学の運氣学

「気」

自然と連動しているものとして
東洋医学では昔から認識していた

- ✓ 五運＝地の気（木/火/土/金/水）
- ✓ 六気＝天の気（風/寒/暑/湿/燥/火）

常に変化する自然の気

「気 候」

- ✓ 気＝15日間の自然エネルギーの変化
- ✓ 候＝5日間の自然エネルギーの変化

1年 = 24節気

年月日時の干支は異なり、気も異なる

例： **2017年5月25日17時**

丁酉年 乙巳月 壬子日 己酉時

気の異常は病気を招く

- ✓ 1993年日本の冷夏により
→ 米の大凶作、世界各地から輸入
- ✓ 2000年の中国の夏の猛暑により、
→ 2003年 SARSの大流行

内外の気から体への影響

- ✓ 気の影響を受け、直ちに発症する場合（熱中症など）
- ✓ 数年後に症状として現れる場合（ガンなど）

その規則は東洋医学の古典に詳しく記述されている

「運氣学」による予測

- ✓ 干支の組合せ（年、月、日、時）から
気の状態を判断し、気候の変化及び
人体への影響を予測できる
 - ✓ 生まれた時点の干支の組合せ（年、月、
日、時）による気の状態から、人生に
起こりうる病気及びその予後を予測
できる
- 

生物全息理論に基づく診断と治療

生物全息

全身の反応情報が人体のある部分
部分に規則的に配列している現象

「部分は全体であり、全体は部分である」
「全体は部分の単なる寄せ集めではない」

部分の変化から全体の状態を把握する

氣を診る四診法（望・聞・問・切）

- ✓ 望診 … 目で見る
- ✓ 聞診 … 耳で聞く、鼻で聞く
- ✓ 問診 … 口で問う
- ✓ 切診 … 手で触る（脈・皮膚…）

例えば スイカを選ぶ時

- ✓ 模様・ヘタ・ヘその様子 ⇒ 望診
- ✓ たたいて音を聞く ⇒ 問診
- ✓ 匂いを嗅ぐ ⇒ 聞診
- ✓ たたいたり、触ったり ⇒ 切診



部分から全体の状態を診る

気の異常がある時、部分の変化から
全体の気の状態を察知する

- ✓ 顔色を診る
- ✓ 触った時の温度
- ✓ 匂いを嗅ぐ
- ✓ 質問をする

スイカを選ぶ時の望聞問切

- ✓ 模様・ヘタ・ヘその様子 ⇒ 望診
- ✓ たたいて音を聞く ⇒ 問診
- ✓ 匂いを嗅ぐ ⇒ 聞診
- ✓ たたいたり、触ったり ⇒ 切診

